

本校舎 幼稚部

学部テーマ「幼児児童が主体的に学び深める保育・授業づくり」 「幼稚園教育要領に基づく保育～目指す 10 の姿を育むために～」

1 テーマ設定の理由

本校幼稚部は、聴覚障がいのある幼児が R2年度4名（5歳児2名、3歳児2名）、R3年度3名（4歳児2名、3歳児1名）在籍している。幼稚園教育に基本を置きながら個々の発達段階に応じた教育活動を行う中で、言葉の習得の基礎づくりを大切にしている教育を行っている。コミュニケーション方法は、音声言語、手話・指文字、文字、絵や写真の表示等である。少人数だが、友達や教師に積極的に関わりながら、相手の話や気持ち、状況を理解しようと耳や目を向け自分から思いを伝えている。

平成 30 年度施行の幼稚園教育要領では、幼児教育・保育の場で育みたい3つの資質・能力を具体化した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（目指す 10 の姿）が示された。この姿は5歳児に限らず、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねることで育まれるもので、日常的な支援や評価の際の視点となる。この目指す 10 の姿への理解を深めながら保育実践や改善を行うことで、幼児の主体的な姿や保育の質向上につながり、全校研究テーマ「新学習指導要領に対応した授業づくり」に迫ることができると考えた。障がい特性や発達段階に応じた支援を行いながら、10 の姿を育むことのできる望ましい支援のあり方について検討したい。

2 研究方針

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、「とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達特性に応じて育っていく」（幼稚園教育要領解説より）ため、合同遊びの場面を取り上げ、実践を通して研究を進めた。

（1）1年次

- ・「目指す 10 の姿」の視点による日々の保育実践と記録
- ・研究授業、学部研修会の実施
- ・幼児教育や聴覚障がい教育の理解を深めるための資料学習
- ・R2 年度の取り組みのまとめ（実践した支援方法のまとめ）

（2）2年次

- ・「目指す 10 の姿」の視点による日々の保育実践と記録（1年次を生かして）
- ・研究授業、学部研修会の実施
- ・環境整備等の保育改善（自由遊びの時間増、制作コーナーの設置等）
- ・幼児教育や聴覚障がい教育の理解を深めるための資料学習
- ・本校幼稚部における「目指す 10 の姿」を育む支援のあり方のまとめ

3 令和2・3年度 研究経過・内容 ※4月と2月に全職員共通の内容を伝達する機会を設定

月	内 容
R2年5月	今年度の研究の方向性確認、資料学習
6月	幼児の実態把握、研究計画、資料学習
7月	遊びの記録・共有
9月	保育実践①（小麦粉遊び）、遊びの記録・共有
10月	幼小学部合同研修会「聴覚障がい児の道徳指導のあり方について」 講師：石川敬氏（元盛岡聴覚支援学校校長）
11月	保育実践②（新聞紙遊び）、遊びの記録・共有、資料学習（東北聾研）
12月	今年度のまとめ、資料学習

R3年1月	全校研発表内容検討・確認
5月	幼児の実態把握、研究計画、遊びの記録・共有、資料学習
6月	保育実践③（色水遊び）、振り返り
7月	保育実践④（水遊び）、振り返り
9月	全日龔研：幼稚部指定授業の視聴
10月	全日龔研：幼稚部分科会オンライン参加
11月	東北龔研：五部研幼稚部会オンライン参加
12月	幼小部合同研修会「子どもの育ちを支える」 講師：菅原敬子氏（奥州市子育て総合支援センター所長） 幼稚部研究のまとめ、資料学習
1月	全校研発表内容検討・確認

4 研究実践

(1) 1年次

ア 「目指す10の姿」の視点による研究授業と記録から

単元名「新聞紙遊びをしよう」授業者：竹野郁子

目標（1）新聞紙の特性に気づき、自由に触れて遊びを楽しむことができる。

【豊かな感性と表現】【思考力の芽生え】【自立心】

（2）友達や教師と関わり、自分の気持ちを伝えながら遊ぶことができる。

【言葉による伝え合い】【道徳性・規範意識の芽生え】【協同性】

場面	支援	幼児の姿
新聞紙を使った自由遊び	・見本を複数準備する ・見守る	教師の作った棒をまねて、Dが新聞紙を丸める。それを見たCが「大根みたい。」と言うと、Dも「大根だ。」と喜び、また作る。 【豊かな感性と表現】【言葉による伝え合い】【協同性】
新聞紙をつなげる設定遊び	・幼児のイメージを共有して一緒に活動する。	みんなで新聞紙をつなぎ約5m四方にする。その下に潜ったBが「お家みたい。」「地震だ!」と新聞紙を揺らすと、A、C、Dは「きゃー!怖い。」と楽しそうに見立て遊びを続けた。【協同性】【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】【豊かな感性と表現】【自立心】
新聞紙と段ボールを使った自由遊び	・新聞紙の特性にふれるための内容設定 ・幼児のイメージを共有して一緒に遊ぶ	Bが車の制作を始める。教師が新聞紙で作ったハンドルを渡すと更に熱中。ライト部分は工夫して顔のようにはり、完成後は乗って遊ぶ。Cに貸すと、Cは車に乗って学校に行くイメージをもち、教師にかばんを作ってほしいと頼む。教師も母親役になって一緒に遊ぶ。 【豊かな感性と表現】【言葉による伝え合い】【自立心】【協同性】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

イ R2年度の記録のまとめ

(ア)「10の姿」の見取り回数（5～12月のエピソード総数63）

項目	回数	項目	回数
自立心	34	自然との関わり・生命尊重	16
協同性	30	道徳性・規範意識の芽生え	15
言葉による伝え合い	29	健康な心と体	12
思考力の芽生え	29	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	10
豊かな感性と表現	28	社会生活との関わり	7

(イ) 支援方法

一緒に活動する（遊ぶ）こと（共感、肯定、イメージ共有、きっかけ作り）	23
見守り（幼児同士の関わり、没頭している活動に対して）	18
適した教材の準備（やり取りの場面を生む個数、存分に味わえる量、イメージを膨らませたり工夫したりするヒントとなる物、幼児が使いやすい物）	16
言葉がけ（称賛、共感、肯定、応援、承認、他児との関わりを促す）	13
言語化（幼児が発したい言葉・行動やその場の様子を表す言葉）	13
話し手や他児への注目の促し	9
配置（幼児同士が見合える活動場所、教材の置き場所等）	8
手本、見本の提示（方法や手順を示す、ロールプレイ等）	6
幼児に求められたことや必要なことを最小限手伝えること	5
遊び方や別の方法の提案（イメージを膨らませるため・新たな活動に目を向けるため）	3
段階的な活動計画、内容設定	3
絵カードや言葉カード（短冊）の提示	2
よい姿やおもしろい遊びの全体への発信	2
約束や決まりの事前確認	2
補聴機器に関する日常的な意識付け	1
教師間の連携	1
定着するまでの継続した取り組み	1
安全への確認や配慮	1

(ウ) 考察

- ・「自立心」「協同性」の出現率が高いことから、教師は幼児が「自分から」「友達と」遊ぶ姿を望んでいることが分かる。逆に「社会生活との関わり」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」が少ないため、今後意識的に活動計画や幼児の姿の見取りに反映させたい。
- ・エピソード記録を時期で比較すると、幼児の変容に合わせた支援方法になっていった。（例：「言葉の伝え合い」・・・7月は幼児が友達に直接伝えることが難しく、教師が手本を示し一緒にやり取りをしていたが、12月には幼児同士で言葉や物のやり取りをする場面が多く見られ、見守りや話し手へ注目を促す支援が増えていた。）
- ・教師が率先して遊びの仲間として関わることで「協同性」「言葉による伝え合い」の育ちが見られた。幼児同士の関わりの場面では、教師が適切な距離で見守ることで、幼児の自然な感情や行動の表出を促すことができた。
- ・聴覚障がいへの配慮として日常的に周囲の様子に幼児が気付くようなアプローチをしたり、話し手への注目を促したりしている。それが10の姿の育ちにもつながっている。
- ・合同遊びに焦点を当てていることで出現率の低かった項目も、保育活動全体を通して見ると実践されている。（例：「社会生活との関わり」・・・幼稚園交流、焼き芋会、夏祭り等、「数量や図形標識や文字などへの関心・感覚」・・・行事の事前学習、発音指導、個別学習等）
- ・幼児の発達段階や個性によって、同じ行動であっても見て取れる「10の姿」の比重や支援方法が異なった。

(2) 2年次

ア 「目指す10の姿」の視点による研究授業と記録から

単元名「色水遊びをしよう」授業者：伊藤起子

目標（1）水の感触や特性を感じながら、自由に表現することができる。

【豊かな感性と表現】【健康な心と体】

(2) 色の変化や量に興味をもち、いろいろな色を作ることができる。

【思考力の芽生え】【自立心】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

(3) 教師や友達と物や言葉のやり取りをしたり、友達との遊びを発展させたりすることができる。 【言葉による伝え合い】【道徳性・規範意識の芽生え】【協同性】

【豊かな感性と表現】【自立心】

場面	幼児の姿	願い	実現のための支援
色水遊び	前時までは容器から溢れても足し続け、水面や流れる水の動きをじっと見て、触れていたC。本時は少しずつ入れるとこぼれないと気付き、八分目で止めた。Dと同時に同じコップに入れて混色し、ジュースを協力して作る場面もあった。【健康な心と体】【思考力の芽生え】【協同性】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】【言葉による伝え合い】	<ul style="list-style-type: none"> 自由に表現したり探求したりしてほしい。 友達と共通の目的をもって遊ぶ場面が増えるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が意図する遊びだけでなく、様々な水との関わりを肯定して見守る。 他児の遊びを周囲に知らせたり誘ったりする。
色水作り	Dは赤と白を混ぜるとピンクになることを発見し、「大好きなピンクを作る。」と言って様々な濃さのピンクを作る。教師が作り方を聞くと、作りながら教えてくれた。教師が「コップのジュースをください。」と言うと、コップが分からなかったため、名前の確認をした。【思考力の芽生え】【豊かな感性と表現】【言葉による伝え合い】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】【自立心】	<ul style="list-style-type: none"> じっくり取り組む姿勢を今後も伸ばしたい。 伝える相手が、教師から友達へ広がるとよい。 語彙を増やしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 心置きなく試行錯誤できるよう、材料は十分準備する。 幼児の気付きを肯定、称賛する声かけをする。 絵カードを活用したり場面を捉えて都度確認したりする。
ジュース屋さんごっこ	Eは教師に促され、ほしい色水を「貸して。」と言うことができた。その後何本もペットボトルに入れ、自動販売機に並べる。「〇〇先生ほしいって。」と声かけをすると、お金を入れて買うまねをして教師にボトルを渡す。その後は自主的に「Dの。」と届けに行った。【自立心】【言葉による伝え合い】【協同性】	<ul style="list-style-type: none"> 自分から「貸して」と言える。 没頭する経験を大切に、徐々に関わりをもつてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「何て言えばいいかな。」等、徐々に自分で言えるよう導く。 一人で没頭する時間を保障し、満足したタイミングで周囲の様子を伝える。

イ R3年度の記録のまとめ

(ア)「10の姿」の見取り回数(5~12月のエピソード総数174)

	記録数	健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か
色水遊び(6月)	31	6	23	6	4	6	20	8	10	13	20
水遊び(7、8月)	43	10	21	9	7	7	17	21	2	10	11
小麦粉遊び(9月)	21	13	16	5	1	14	13	0	1	3	12
新聞紙遊び(11月)	20	10	15	8	5	4	11	0	3	8	8
運動遊び(12月)	29	20	16	9	19	3	2	0	5	9	3
他(自由遊び等)	30	14	22	12	15	12	8	10	7	19	13
計	174	73	113	49	51	46	71	39	28	62	67

(イ) 記録を基に授業改善した例

場面	幼児の姿	願い	実現のための支援
色水作り	C は準備した色水、カップ、パック等、新しい物を全種類使い、次々に遊びを変える。できた色を1か所に全部合わせて、薄茶色や灰色をたくさん作る。	<ul style="list-style-type: none"> 色や量の変化をじっくり感じる時間もあるとよい。 どんどん試行錯誤してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具ではなく色水に注目できるように、容器の種類を減らす。(ペットボトルとカップのみにする。)
水遊び	C は、D がビニール袋に水をたくさん入れているのを見て同じように入れる。2人を見ていたEも水を入れるのを手伝う。CとDは「ありがとう。」と言いながらどんどん水を入れていった。	<ul style="list-style-type: none"> 個の目的達成後、集団で活動をとみすることを楽しんでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の探求活動の保障のためにビニール袋(小)を人数分、全員で協力して1つに溜める活動への発展を狙ってビニール袋(大)を1袋準備する。

(ウ) 考察

- 教師の 10 の姿を見取る目が養われたこと、昨年度まとめた支援方法を実践に生かしたことで、幼児の育ちをより多く捉えることができた。
- どの遊びも、単元の狙いや目標としていた幼児の姿を見取ることができた。
- 単元(遊び)によって、育てたい力や育つ力に特徴が見られた。(例:色水遊びは、混色や水量の試行錯誤から「思考力の芽生え」、運動遊びは、ルールのあるゲームに取り組む機会が多かったことから「道徳性・規範意識の芽生え」の記録が多い。)
- 単元の中で、一人でじっくり取り組む活動と集団で取り組む活動をバランスよく取り入れることが意識されていたことで、各遊びで 10 の姿のほぼ全ての項目を見取ることができた。
- 出現率の高い「自立心」は、やりたいことを見つける、目的をもって取り組むなど自ら遊びに向かう姿の現れであり、どの遊びでも主体的に遊ぶ姿が見られた。
- 例えば同じ「自立心」でも、年少児は感覚や環境に慣れて自らやってみる姿、年中児は諦めずにやり遂げる姿など、段階的に 10 の姿に近づいていく様子が記録から感じられた。
- 昨年度出現率の低かった「社会生活との関わり」では、家庭や地域で目にした物や経験したことを遊びに取り入れている様子、集団を意識している様子等を捉えて記録した。各項目で年少・年中でどのような姿として表れるのか、具体的な姿の検討が必要である。
- 時期で比較すると、年度始めは自然に触れながら、素材を通して試行錯誤や発見を個々でじっくり楽しむ場面が多く、その後、年下の友達への思いやりやみんなと一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、ルールを意識した集団遊びの場面が増えていった。

5 成果と課題

- 《成果》・幼児同士で主体的に遊んだり、素材に存分に触れたりする場面が増えた。
- 「10 の姿」の視点で記録することで、幼児の様子を具体的に前向きに捉え、今後育みたい力を共通理解して支援することができた。
 - 「願い」「願い実現のための支援」の記入により、特に 10 の姿の何に着目してその姿を捉えたのかそれぞれの教師の思いを汲み取り、次からの支援で意識することができた。SOAP(医療現場で使われている患者記録の視点で、保育現場でも活用されている)方式の記録で、日々の保育を循環させることができた。
 - 幼稚部職員全員で記録を共有することで、自身の保育について振り返る機会となった。
 - 幼児の発達段階を確認し、幼児教育とはどうあるべきかを考えることができた。
 - 年中の幼児については、昨年度の様子と比較して成長を感じたり育てたい力を確認したりす

ることができ、継続して指導に生かすことができた。

- 幼児の思いや様子に気づき、音や言葉をタイムリーに伝えて指導することで、聴覚障がい教育で大事にしたい概念形成や言葉の獲得にもつなげることができた。

- 《課題》
- 年少、年中時点で見られるどのような姿が10の姿につながっていくか、今後も幼児の様子を見取る際の視点にしていくことと、教師間で話題にして共有することを継続していきたい。
 - さらに幼児の育ちを促すため、全体的な保育環境の整備や保育記録の検討、継続をしていきたい。
 - 少人数指導により集団の刺激が少ない中で、幼児同士のやり取りや話し合い活動を更に深め主体的な姿を引き出していくための工夫を探りたい。

6 まとめ

1年次に共有した支援方法を2年次の実践に生かし、記録を共有することで、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を育む生活を循環させながら、一人一人の幼児の発達や望ましい支援の在り方について多様な視点から捉えることができた。教師の幼稚部配属年数はそれぞれだが、幼児の姿を個々の感性や視点で捉え、どのような育ちを願い、そのためにどのような支援をしていきたいか共有していくことが、教師間の学び合いや保育の質の向上につながった。

さらに、言葉の獲得のために聴覚障がい教育で日常的に行っている「周囲の様子への気づきを促す」「物や出来事、気持ちに言葉をのせる」などの支援が、10の姿の「言葉による伝え合い」だけでなく、他の項目における育ちや主体的な姿を引き出したことがエピソード記録から読み取ることができた。(例：友達の遊びに興味をもったり、相談しながら同じ目的に向かったりする「協同性」、自分の気持ちを表現する「豊かな感性と表現」等)

また、今年度は幼児期にふさわしい生活を意識し、以下のような改善も行ってきた。

- 幼児が主体的に活動する場面が増えるよう、自由遊びの時間を増やした。
- 豊かな想像力や言葉の力を育むため、絵本の読み聞かせの時間を増やした。
- 遊びに使う物を自分でイメージして作ることができるよう、制作コーナーを設置した。
- 学部通信で、幼児の育ちや保育の視点等について掲載し、保護者との連携を図った。

これらも有効であったと考えられるが、環境構成など今後も改善が必要であるため、保育環境評価スケール等を使って更に幼児の育ちを促す支援を追求していきたい。

幼児理解や信頼関係があって初めて、重要な育ちの一場面を捉えることができる。幼児の心の動きを想像し、共感することで「10の姿」が見え、活動も活性化していく。幼児を見る視点として「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を今後も大切に、幼児の主体的な姿につながるよりよい支援、保育を目指していきたい。